スポーツ王国●しずおか

次世代アスリートの育成に向けて

スポーツの普及や交流などを通じて、「スポーツ王国しずおか」を目指す静岡県は、
アスリートの育成やスポーツ人口の増大に向けた取組を積極的に行っている。
2020年の東京オリンピックに向けて本格的に動き出した本県の取り組みを紹介する。

東京オリンピック支援事業、2本の柱

静岡県のスポーツ推進の取組は、県民の健康増進を図るとともに、スポーツを通じた国内外との交流によって、経済、観光、教育、文化面などの活性化を目指している。中でも2020年の東京オリンピックに向けた支援事業は、本県から多くの選手を輩出し、その活躍を誇りに思い、県民のスポーツへの関心を高めることを目指している。

「2020（フレーフレー）東京オリンピック『ふじのくに』スポーツ推進事業」は2本の柱から成る。1つは東京オリンピック指定強化選手を対象とした「候補選手支援事業」だ。強化に要する費用の一定割合を補助することで選手の日々の練習をサポートする。平成28年度の支援対象は静岡県に関連のある70人のアスリートだ。陸上、水泳、自転車、柔道、体操、フェンシングなど21競技にわたり、シニア（一般）56人、ジュニア14人がリストに名を連ねる。

もう1本の柱は県内の中学生を対象にした「トップアスリート等派遣事業」だ。これは次世代を担うジュニア選手の育成が目的で、トップアスリートによる実技指導や専門家による栄養指導などを通じて、中学生の部活動の活性化を図り、将来のオリンピック選手を育てる取組だ。平成27年度は49回開催し、335校、生徒4443人、顧問503人が参加。参加者らは「高い技術が身に付いた」「よりよい練習方法が分かった」などと語り、指導者の育成にも好影響を与えている。

スポーツ王国の先に見える健康と活力にあふれた「ふじのくに」

競技人口の拡大を図るため、本県は今年度から小学生の高学年を対象にしたジュニアスポーツ普及事業も始めた。これは小学生に様々なスポーツの体験機会を与えることで、才能のある候補生を発掘し、ジュニア選手の育成につなげるプログラムだ。また、サッカー王国静岡の復活を目指す「ゴールデンサッカーアカデミー事業」ではU15の国際大会を開催し、静岡県代表チームがヨーロッパや中南米のチームと対戦する機会を創出している。

2020年の東京オリンピック、2019年のラグビーワールドカップの県内開催を控え、県民のスポーツへの関心の高まりが期待される中、本県は「県民スポーツ・レクリエーション祭」を全県規模で開催し、老若男女がスポーツと触れ合う機会も設けている。種目はグランドゴルフ、ファミリーバドミントン、インディアカなど、気軽に参加できるニュースポーツが中心だが、年間約1万人の参加者が「スポーツ王国しずおか」のすそ野を広げている。

2つの世界大会を契機に、「スポーツ王国しずおか」の実現を目指す静岡県。その先には健康と活力にあふれた「ふじのくに」の姿が見えている。

第23回県民スポーツ・レクリエーション祭。
老若男女がスポーツと触れ合った。

ゴールデンサッカーアカデミー事業2015大会はブラジル、メキシコ、タイ、国内からは名古屋グランパスU-15を招き10月10日から12日までU-15世代がエコパで熱戦を繰り広げた。

ゴールデンサッカーアカデミー事業2015大会の決勝は、メキシコのプーマスFCと静岡県代表SJタイガーで行われ、プーマスFCが優勝。

トップアスリート等派遣事業でバレーボールを指導する元日本代表 杉山祥子さん。

天性の空中感覚で世界へ飛翔

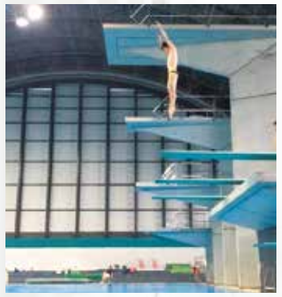
山田周汰（やまだしゅうた）さん
高飛び込み選手

平成12（2000）年、静岡県浜松市に生まれた山田周汰さんは、幼少の頃からスイミングスクールに通う一方、サッカーにも興じる少年だった。ところが、小学3年生の時、古橋廣之進記念浜松市総合水泳場「トビオ」で高飛び込みを偶然目撃して感動。以来、飛び込み一筋に狙いを定め、現在は東京オリンピックの指定強化選手として日々厳しいトレーニングを続けている。

山田選手の持ち味は、ひねり技にキレがあり、入水が美しいこと。水しぶきがほとんど上がらず、プールに吸い込まれていくような入水技術は、同年代の選手中では別格だ。2015年の「全国中学校選抜水泳競技大会」では高飛び込み部門で2位、板飛び込み部門で3位、「2015紀の国わかやま国体」では、高飛び込み・少年男子の部で3位に輝いている。しかし、本人は納得していない。「回転系の技が苦手なので、今後はもっと筋肉をつけ、体幹も鍛える必要があります。そのために食事にも気を配っています」と山田選手は自らを分析する。

目標は東京オリンピックだ。「飛び込みで日本人初のメダルを狙いたい」と山田選手。コーチの毒島泰士さんも「彼の空中感覚と水ギレは天性のもの。課題を克服できれば、メダル獲得は十分に可能です」と期待を寄せる。

現在は帝京高校（東京）に通いながら技を磨く山田選手。2020年の華麗な飛翔に注目が集まる。



キレのあるひねり技と美しい入水でさらなる高みを目指す。